

秋の自然エネルギー研修旅行に28名

竹下昇のふるさと創生基金を使った立川の風力発電は素晴らしい!

一か所集中中の医療介護施設とバイオマスの最上町最高

豊富な木質チップエネルギー(バイオマス)を利用した町おこしと木質チップ発電の将来が楽しみ。

夜いろんな人と交流できた水戸部先生のふるさとガイドもおもしろかった

冬の季節風・山の森林・田んぼの中の太陽光発電など、地域の特性を生かした、素晴らしい取り組みを見学できた。

どこでも食事がおいしくて、とても楽しい旅行でした。私も遅ればせながら会員になります。



11月5日～6日きらきら発電と泉病院友の会環境委員会共催の「秋の自然エネルギー研修旅行会」が行われ、28名が参加しました。5日秋田県由利本荘市の親川風力発電と庄内町立川の風車村を見学。翌6日最上町のバイオマスを活用したウエルネスタウンと東根市のソーラーシェアリングを見学。5日の夜には山形エネルギーネットの皆さんと交流。学習いっぱい、交流いっぱいの旅行会でした。旅行費用は交通費・宿泊費・見学費で一人当たり1万円。食事代7千円をきらきら発電が負担しました。



秋田由利本荘市垂直型小型風車



山形最上町バイオマスボイラー



東根さくらんぼ市民共同発電所

きらきら発電・市民共同発電所
〒981-3215 仙台市泉区北中山 3-17-12 電話・FAX 022-379-3777
<http://kirakirahatuden.com/News> 第21号 2016年11月

宮城県知事が放射性廃棄物一斉焼却提案

仙台市長が焼却受け入れを示唆

対象になる放射性廃棄物は3万6千トン

11月3日の宮城県市町村長会議に参加した奥山恵美子仙台市長は、記者らの質問に「試験焼却に限定して応じることを前提に住民説明が可能かどうか検証したい」（読売新聞）と、受け入れに前向きな姿勢を表明しました。試験焼却は本焼却を実施する焼却場の安全性および性能を検証する工程で、試験焼却を受け入れたら本焼却が実施されるのは確実です。焼却反対の声をあげなければ、最終処分場候補地に指定された栗原市・加美町・大和町の3市町の住民が反対した「放射性廃棄物の焼却」が仙台市内で実施されることになります。

国の調査はずさんで、まとめ方が恣意的

11月3日の村井知事の提案の前提となった国の調査はずさんな内容であることが判明しています(毎日新聞9日付け)。栗原市が国の調査に同行し同じ場所で測定していますが、国が8000ベクレル以下と表明したのも、栗原市の調査結果では3か所が8000ベクレルを越えています。また**築館地区**の3か所の汚染物質244トンを**6400ベクレルと国は公表**していますが、**築館地区の1か所は8300ベクレル**と8000ベクレルを越えています。

焼却したら放射能は飛散する

焼却炉のバグフィルターは0,3 μ m以上の粒子の捕捉しか保証していません。

昨年仙台市の稲わら・ほだ木焼却の時も、健康被害や異常な匂いなどの苦情が仙台市に寄せられています。しかも健康被害を受けた青葉区貝ヶ森や泉区鶴が丘の住民は他県に引っ越しを余儀なくされました。仙台市は事前の説明もなく、昨年強硬実施しました。再び市民無視の悪政を許すわけにはいきません。



昨年仙台市が520トン焼却した時の様子

脱原発仙台市民会議が受け入れ中止の要望書提出

11月29日質問への回答が出ます

きらきら発電が加入し、水戸部理事長が共同代表を務める「脱原発仙台市民会議」が11月11日、仙台市環境局総務課に「仙台市内で焼却するな」の要望書を提出し、7項目にわたる質問を行いました。そして仙台市より同会に対し、11月29日回答する旨の連絡がありました。29日は1時間半直接話し合えるよい機会です。市民の生の声を届けるため、是非足をお運びください。仙台市民でなくても、参加可能です。なお資料準備のため、参加希望者は事前に市民会議事務局(広幡宅)に連絡をしてください。

場所＝仙台市役所2階第二委員会室

時間＝11月29日午後1時半～3時半